



イージー・ビーに用いるビーコンボックスとビーコンカード＝岐阜市本荘中ノ町、テクノア

テクノア新サービス

人と物の位置、作業実績ひと目

来月発売

業務用ソフトウェア開発のテクノア(岐阜市本荘中ノ町、山崎耕治社長)は、人や物の位置情報、作業実績などをリアルタイムに把握できる新サービス「Ez Bee(イージー・ビー)」を10月から発売する。1年間で100社への導入を目指す。

イー・ビーは「モノのインターネット(IoT)」のインフラ整備を手掛ける「WHERE」(東京都千代田区)と共同開発した。工場内にネットワークシステムを構築し、製造現場の各場所に発信器を取り付けたステンレス製の「ビーコンボックス」を設置。取り扱う物の作業指示書と作業者に付与した「ビーコンカード」をそれぞれボック

スに入れて作業を始めることで、人と物の位置が分かるほか、工程の進行状況や作業実績がパソコン、タブレット端末で確認でき、

生産性の向上に活用できる。製造業や物流業の中小企業の需要を見込む。ソフトウェアの初期導入費用は30

万円(税別)から、月額利用料1万2500円(同)から。他にビーコンボックスやビーコンカードの費用が必要になる。